令和８年１１月１６日

令和８年度病害虫発生予報第８号

長崎県病害虫防除所長

向こう１か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

農作物名	病害虫名	発生程度	
		現況	予想
きゅうり	うどんこ病	やや少	やや少
	褐斑病	並	並
	ミナミキイロアザミウマ	並	並
	コナジラミ類	やや少	やや少
トマト	黄化葉巻病	やや多	やや多
	コナジラミ類	やや多	やや多
いちご	うどんこ病	並	並
	アブラムシ類	やや多	やや多
	ハダニ類	少	やや少
	ハスモンヨトウ（**防除情報第９号継続**）	やや多	やや多
	アザミウマ類	少	やや少
ブロッコリー	黒腐病	やや少	やや少
	べと病	並	並
	コナガ	少	やや少
	ヨトウムシ類（**防除情報第９号継続**）	多	多
	オオタバコガ（**防除情報第９号継続**）	並	やや多
	アオムシ	やや少	やや少
レタス	灰色かび病	並	並
	菌核病	並	並
	アブラムシ類	少	やや少
	オオタバコガ（**防除情報第９号継続**）	並	やや多
かんきつ	ミカンハダニ	やや多	やや多

【発生予報】　本文の（　　）内は平年値

きゅうり

１．うどんこ病

（１）予報内容：発生程度　やや少

（２）予報の根拠

１１月前期の巡回調査（４筆）の結果、発病葉率は０．６％（１．１％）、発生圃場率は５０．０％（３１．０％）であった。

２．褐斑病

（１）予報内容：発生程度　並

（２）予報の根拠

１１月前期の巡回調査（４筆）の結果、発生を認めなかった（発病葉率０．０％、発生圃場率０．１％）。

３．ミナミキイロアザミウマ

（１）予報内容：発生程度　並

（２）予報の根拠

ア　１１月前期の巡回調査（４筆）の結果、発生を認めなかった（寄生葉率０．１％、発生圃場率０．１％）。

４．コナジラミ類

（１）予報内容：発生程度　やや少

（２）予報の根拠

　　１１月前期の巡回調査（４筆）の結果、寄生葉率は３．８％（６．６％）、発生圃場率は１００％（７３．３％）であった。

（３）防除上注意すべき事項

ア　密度が高くなると防除が困難になるので発生初期に防除する。

イ　タバココナジラミは退緑黄化病の病原ウイルス（ＣＣＹＶ：ウリ類退緑黄化ウイルス）を媒介するので、防除を徹底する。

ウ　薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤（令和８年長崎県病害虫防除基準のＰ１５３～１５４「作用機構による分類（ＩＲＡＣ）」参照）を連用しない。

トマト

１．黄化葉巻病

（１）予報内容：発生程度　やや多

（２）予報の根拠

ア　１１月前期の巡回調査（８筆）の結果、発病株率は０．０％（０．０％）、発生圃場率は３７．５％（７．１％）であった。

イ　病害虫防除員の情報によると本病の発生状況はやや多であった。

（３）防除上注意すべき事項

ア　発病株は伝染源となるため、見つけ次第抜き取って適切に処分する。

イ　病原ウイルス（ＴＹＬＣＶ）は、タバココナジラミによって媒介されるため、本虫の防除を徹底する。

ウ　黄化葉巻病抵抗性品種は発病が抑制されるものの病原ウイルスには感染し、感染源となる可能性があるため、感受性品種同様、発病株は見つけ次第抜き取って適切に処分し、直ちにタバココナジラミの防除を行う。

エ　施設内の雑草は、病原ウイルス及び媒介虫の増殖源となるので除去する。

２．コナジラミ類

（１）予報内容：発生程度　やや多

（２）予報の根拠

ア　１１月前期の巡回調査（８筆）の結果、寄生葉率は１．５％（２．４％）、発生圃場率は８７．５％（５０．１％）であった。

イ　病害虫防除員の情報によると本虫の発生は多であった。

（３）防除上注意すべき事項

ア　密度が高くなると防除が困難になるので発生初期に防除する。

イ　本虫は黄化葉巻病や黄化病ウイルスを媒介するので低密度でも防除を徹底する。

ウ　本虫は葉裏に多く寄生しているので薬剤のかけむらがないよう丁寧に散布する。

エ　施設内の雑草は、本虫の増殖源となるので除草を徹底する。

オ　薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和８年長崎県病害虫防除基準Ｐ１６９～１７０の「作用機構による分類（ＩＲＡＣ）」参照）の薬剤の連用を避ける。

いちご

１．うどんこ病

（１）予報内容：発生程度　並

（２）予報の根拠

１１月前期の巡回調査（２６筆）の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

２．アブラムシ類

（１）予報内容：発生程度　やや多

（２）予報の根拠

１１月前期の巡回調査（２６筆）の結果、寄生株率は３．６％（１．７％）、発生圃場率は２６．９％（２５．７％）であった。

（３）防除上注意すべき事項

ア　花のがくに寄生しやすいので、発生を認めたら初期のうちに防除を行う。

イ　薬剤のかけむらがあると防除効果が低下するので、葉裏まで十分に散布する。

３．ハダニ類

（１）予報内容：発生程度　やや少

（２）予報の根拠

１１月前期の巡回調査（２６筆）の結果、寄生株率は０．９％（４．４％）、発生圃場率は７．７％（３０．５％）であった。

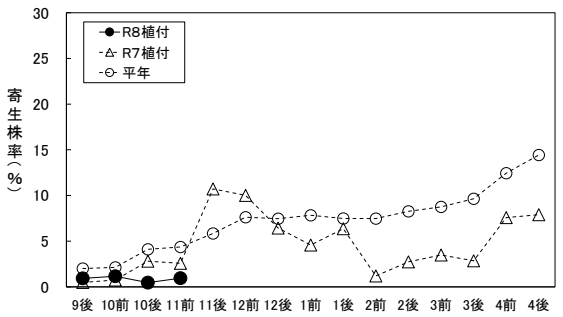


図 いちご ハダニ類 寄生株率

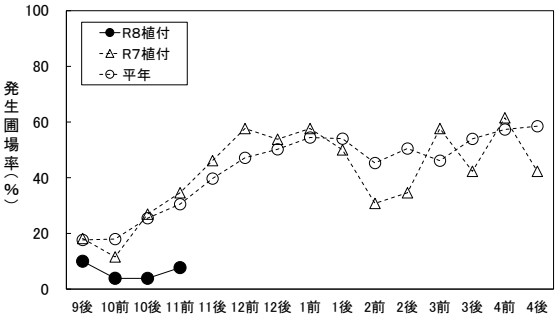


図 いちご ハダニ類 発生圃場率

（３）防除上注意すべき事項

ア　薬剤散布前には古葉の整理を行い、薬剤が葉裏までかかるようにする。また、摘葉した古葉は、速やかに圃場外に持ち出し適切に処分する。

イ　今後、天敵を導入する圃場では、天敵に影響の少ない薬剤を用いて防除を行い、ハダニの密度を極力低減した上で放飼する。

ウ　薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和８年長崎県病害虫防除基準Ｐ１８６～１８７の「作用機構による分類（ＩＲＡＣ）」参照）の薬剤の連用を避け、薬剤感受性低下のおそれが少ない気門封鎖剤や異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。

４．ハスモンヨトウ

令和８年１１月１２日付け**病害虫発生予察防除情報第９号**を継続。

（１）予報内容：発生程度　やや多

（２）予報の根拠

ア　１１月前期の巡回調査（２６筆）の結果、食害株率は４．６％（１．９％）、発生圃場率は２６．９％（３０．９％）、幼虫の寄生株率は０．６％（０．３％）であった。

イ　フェロモントラップ（諫早市）の誘殺量は、１０月６半旬に急増した（図　ブロッコリーの項参照）。

（３）防除上注意すべき事項

ア　老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若・中齢幼虫期に薬剤散布する。

イ　薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤（令和８年長崎県病害虫防除基準のＰ１８６～１８７「作用機構による分類（ＩＲＡＣ）」参照）を連用しない。

５．アザミウマ類
（１）予報内容：発生程度　やや少
（２）予報の根拠
　　１１月前期の巡回調査（２６筆）の結果、寄生花率は０．０％（０．５％)、発生圃場率は８．０％（１９．８％）であった。
（３）防除上注意すべき事項
ア　発生が多くなってからの防除は困難であるので、早期発見、早期防除に努める。
イ　本虫は、薬液が到達しにくい蕾や花、がく等に寄生しているため、薬剤散布は丁寧に行い薬液がかかるようにする。
ウ　薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤（令和８年長崎県病害虫防除基準Ｐ１８６～１８７の「作用機構による分類（ＩＲＡＣ)」参照）を連用しない。
エ　薬剤の選定に当たっては、ミツバチへの影響に注意する。

ブロッコリー

１．黒腐病
（１）予報内容：発生程度　やや少
（２）予報の根拠
　　１１月前期の巡回調査（１１筆）の結果、発生を認めなかった（発病株率２．０％、発生圃場率１１．５％)。

２．べと病
（１）予報内容：発生程度　並
（２）予報の根拠
　　１１月前期の巡回調査（１１筆）の結果、発生を認めなかった（発生を認めない)。

３．コナガ
（１）予報内容：発生程度　やや少
（２）予報の根拠
ア　１１月前期の巡回調査（１１筆）の結果、発生を認めなかった（寄生株率４．６％、発生圃場率４１．５％)。
イ　向こう１か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

４．ヨトウムシ類（ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ）
令和８年１１月１２日付け**病害虫発生予察防除情報第９号**を継続。
（１）予報内容：発生程度　多
（２）予報の根拠
ア　１１月前期の巡回調査（１１筆）の結果、ハスモンヨトウの寄生株率は４．７％（１．９％)、発生圃場率は２６．９％（３０．９％）であった。一部多発圃場が見られた。
　　シロイチモジヨトウの寄生株率は６．９％（０．８％)、発生圃場率は５４．５％（１８．８％）であった。
イ　フェロモントラップ（諫早市）の誘殺量は、ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウともに１０月６半旬に急増した（図)。
ウ　向こう１か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

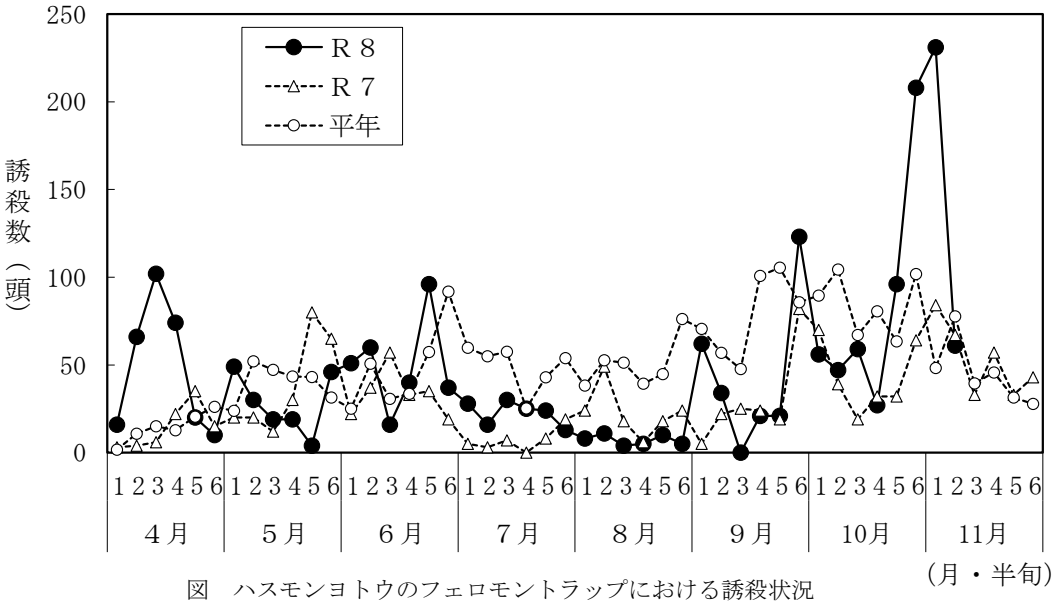


図　ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況
（諫早市小船越町）
※R8 年の 10 月 23 日～27 日は台風のため欠測

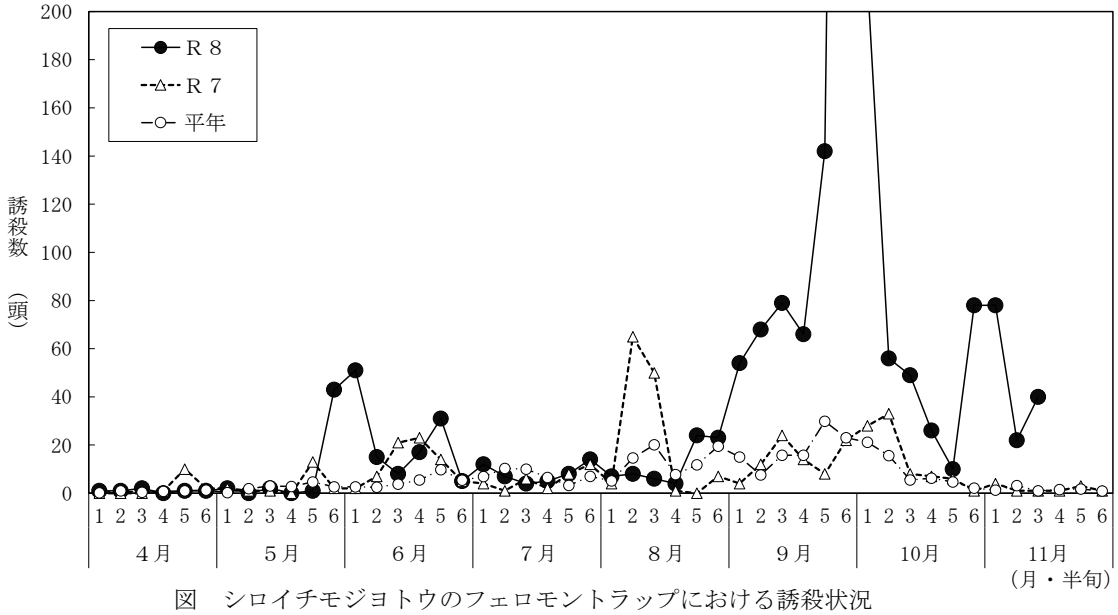


図　シロイチモジヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況
（諫早市小船越町）
※R8 年の 10 月 23 日～27 日は台風のため欠測

（３）防除上注意すべき事項

ア　発生は圃場間差が大きいので圃場の見回りを徹底し早期発見に努める。また、卵塊や分散前のふ化幼虫は見つけ次第除去し、適切に処分する。

イ　老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若・中齢幼虫期に薬剤散布する。

ウ　今後、定植する圃場においては、苗に薬剤のかん注処理や粒剤処理を行う。また、すでに定植した圃場で薬剤のかん注や粒剤を処理した圃場においても、定植後３～４週間以上経過している場合は、発生状況の把握に努め、発生初期に薬剤防除を行う。

エ　薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤（令和８年長崎県病害虫防除基準のＰ２０１～２０２「作用機構による分類（ＩＲＡＣ）」参照）を連用しない。

５．オオタバコガ

令和８年１１月１２日付け**病害虫発生予察防除情報第９号**を継続。

（１）予報内容：発生程度　やや多

（２）予報の根拠

ア　１１月前期の巡回調査（１１筆）の結果、発生を認めなかった（寄生株率０．３％、発生圃場率８．３％）。
イ　フェロモントラップ（諫早市）の誘殺量は１０月６半旬に増加し、平年より多く推移している（図）。
ウ　向こう１か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

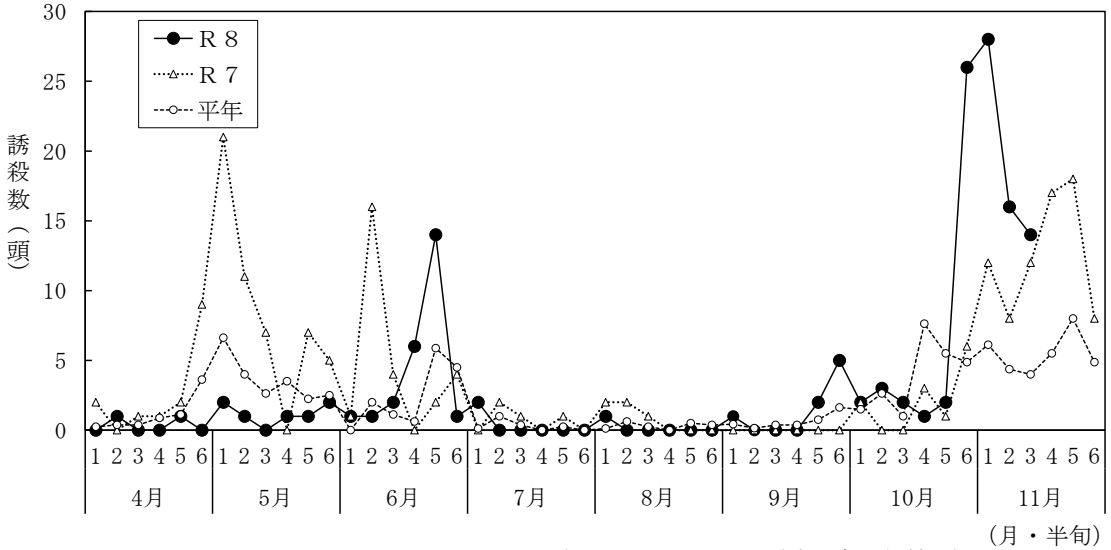


図 オオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺状況（諫早市小船越町）

※R8 年の 10 月 23 日～27 日は台風のため欠測

（３）防除上注意すべき事項
ア　発生は圃場間差が大きいので圃場の見回りを徹底し早期発見に努める。
イ　老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若・中齢幼虫期に薬剤散布する。
ウ　今後、定植する圃場においては、苗に薬剤のかん注処理や粒剤処理を行う。また、すでに定植した圃場で薬剤のかん注や粒剤を処理した圃場においても、定植後３～４週間以上経過している場合は、発生状況の把握に努め、発生初期に薬剤防除を行う。
エ　薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤（令和８年長崎県病害虫防除基準のＰ２０１～２０２「作用機構による分類（ＩＲＡＣ）」参照）を連用しない。

６．アオムシ
（１）予報内容：発生程度　やや少
（２）予報の根拠
１１月前期の巡回調査（１１筆）の結果、発生を認めなかった（寄生株率０．１％、発生圃場率３．１％）。

レタス

１．灰色かび病
（１）予報内容：発生程度　並
（２）予報の根拠
１１月前期の巡回調査（６筆）の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

２．菌核病
（１）予報内容：発生程度　並
（２）予報の根拠
１１月前期の巡回調査（６筆）の結果、発生を認めなかった（発病株率０．０％、発生圃場率２．２％）。

３．アブラムシ類

（１）予報の内容：発生程度　やや少

（２）予報の根拠

ア　１１月前期の巡回調査（６筆）の結果、発生を認めなかった（寄生株率０．２％、発生圃場率５．９％）。

イ　向こう１か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

（３）防除上注意すべき事項

気温の低下につれて球内部の葉への寄生が増えるので、薬剤防除にあたってはできるだけ結球前の防除を徹底する。

４．オオタバコガ

令和８年１１月１２日付け**病害虫発生予察防除情報第９号**を継続。

（１）予報内容：発生程度　やや多

（２）予報の根拠

ア　１１月前期の巡回調査（６筆）の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

イ　フェロモントラップ（諫早市）の誘殺量は１０月６半旬に増加し、平年より多く推移している（図　ブロッコリーの項参照）。

ウ　向こう１か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

（３）防除上注意すべき事項

ア　本虫は結球内部に食入すると防除が困難になるため、結球前の防除を徹底する。

イ　薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統薬剤（令和８年長崎県病害虫防除基準のＰ２０６～２０７「作用機構による分類（ＩＲＡＣ）」参照）を連用しない。

かんきつ

１．ミカンハダニ

（１）予報内容：発生程度　やや多

（２）予報の根拠

１１月前期の巡回調査（３６筆）の結果、寄生葉率は９．７％（５．０％）、発生圃場率は４７．２％（３６．３％）で、一部多発圃場が見られた。

（３）防除上注意すべき事項

ア　越冬虫のマシン油乳剤による防除は、収穫後の１２月（遅くとも１月上旬まで）に、晴天が続く日（少なくとも２、３日程度）を目安に行う。

イ　樹勢が低下している樹では落葉が助長されることがあるので、そのような園や１２月に防除ができなかった園では、厳寒期を過ぎた３月に散布する。

ウ　マシン油乳剤は、名称が異なる剤が複数あるので、各製品の使用基準をよく確認する。

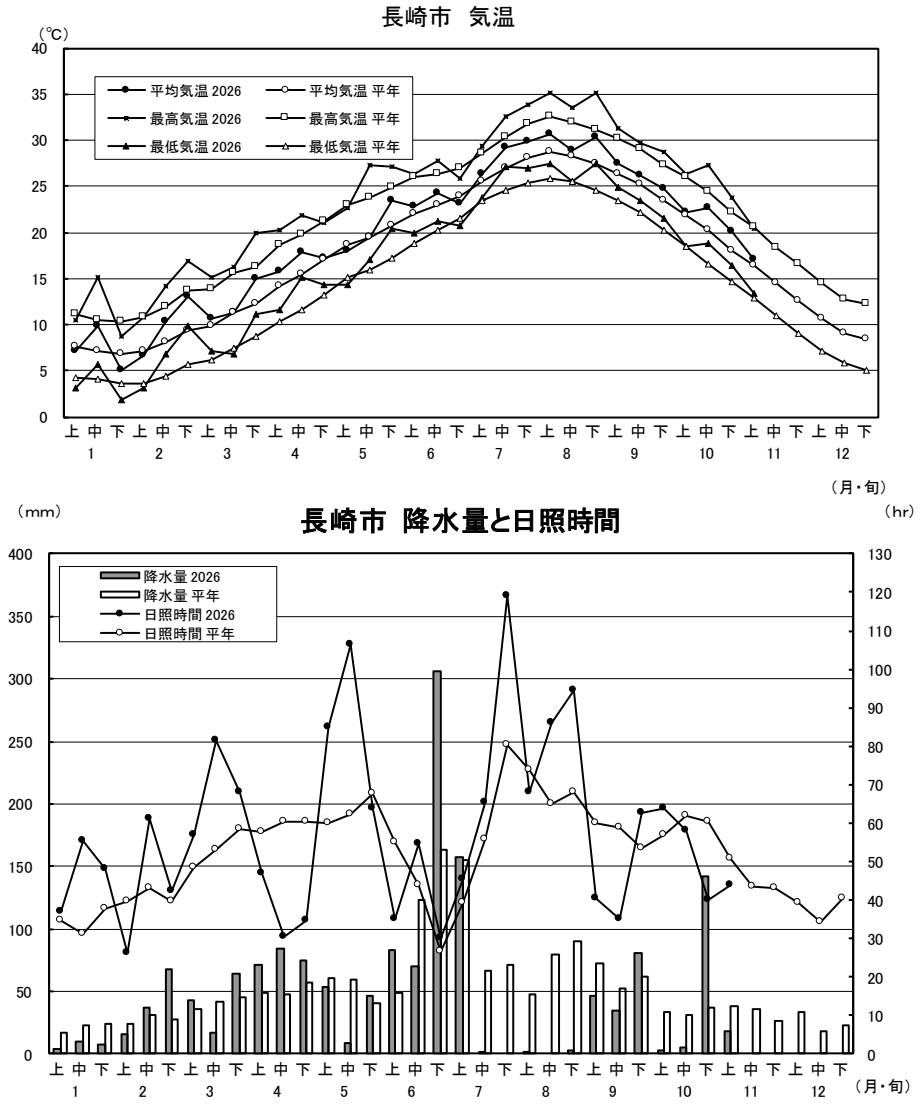
【参考】

（令和８年１１月１２日発表　１か月予報　福岡管区気象台）

要素	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気温	20	30	50
降水量	30	30	40
日照時間	40	30	30

※予報対象地域：九州北部地域

令和8年の気象経過（長崎地方気象台）



○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県農林技術開発センター　環境研究部門　病害虫発生予察室（長崎県病害虫防除所）ホームページ」アドレス

https://www.pref.nagasaki.jp/e-nourin/nougi/JPP/index.html

○この情報に関するお問い合わせ

長崎県農林技術開発センター　環境研究部門　病害虫発生予察室

（長崎県病害虫防除所）　ＴＥＬ：0957-26-0027